

# 淀川区探検隊 知れば知るヨド



諸説アリ!

## 淀川区ってどうやって今の街並みになった?

岡本区長と区内にあるナゾと一緒に解き明かしていきましょう!

# 十三になぜ人が集まった?

現在の十三駅周辺は商店街や歓楽街が集まり、多くの人でにぎわっていますよね。どうして十三は人が集まる場所になったのかを新之介さんと一緒に調べてみました。



## 歓楽街の始まりはお餅屋さん!?

さかのぼ

### 淀川区の昔を遡ってみましょう!

大昔の淀川区は海の中で、淀川などが運んだ土砂が堆積し、陸になりました。とはいえ、現在の地形とは少し違い、十三周辺には今のまっすぐな淀川ではなく、曲がりくねった中津川という川が流れていました。

淀川の上流にある京都に都が開かれると、多くの川に囲まれていた地の利を活かし、十三周辺は大阪と能勢方面や西国を結ぶ渡し場として重要な土地となりました。水利に恵まれた土地では水田が広がり、現在のにぎわいからかけ離れた牧歌的な風景だったようです。

下関からの道「中国街道」、能勢からの道「能勢街道」\*が十三で交わります。各地からやって来たたくさんの人々が、舟で大阪に渡る前に、十三の渡し場で焼餅「十三焼」を食べて一服ついていました。

※山田街道を経由



明治初期の十三渡し



① 

創業296年!  
いまごとやきゅうべえ  
**今里屋久兵衛**

現在は休業中ですが、いつかは再開されるとのこと。昔々に舟を待つ人々が舌鼓をうった風味豊かな十三焼を食べられる日を心待ちにしましょう!

② 



十三公園には中津川のほとりに自生していたと思われるクスノキが今も残っています。

中津川と旧街道の現在の位置関係



# 川の流が変わると何が変わる?

## ありがとう中津川こんにちは新淀川

十三に繁栄をもたらしていた川の流れですが、洪水による被害も多く、特に明治18年の被害は甚大で、大阪中心部の大部分が浸水。この大災害をきっかけに、大規模な治水工事に乗り出します。都島区毛馬以西の中津川を、平均幅750mに拡幅し、延長15kmに達する放水路を大阪湾につなげるビッグプロジェクトが明治30年に着手されま

した。これが今の淀川となるのです。

曲がった流れを直線にする工事の中、中津川は新しい川の一部として利用されたり、埋め立てられるなど、川としての機能を徐々に失っていきました……。しかし、中津川が埋め立てられたことで、新しい土地が生まれ、次々と人々が集まって来ました。



みち

## 路は水上から陸上へ

明治42年には、新淀川開削工事の完了と共に、明治初期からあった狭い木造の橋に代わり、長さ約683m、幅約5.5mの、十三大橋の前身となる大鉄橋が架かりました。

明治43年には箕面有馬電気軌道(現在の阪急電鉄)の梅田・宝塚間と石橋・箕面間が開通。十三駅が設けられ、まちの発展の大きなきっかけになります。



淀川区民にはおなじみだったタケタマール

代道路の整備が始まり、かつて人々が歩んできた能勢街道は国道176号線に、中国街道は十三筋にその役割が移り変わりました。

こうして、十三は主要道路や阪急電車各線が一堂に会する交通要衝となり、住宅地や工場用地としての価値がさらに高まり、人が集まる駅前には繁華街が形成されていくのです。



淀川鉄橋を渡る阪急電車(大正13年)

鉄道も走り、街道が交わる好立地。その利便性に企業が注目し、大正4年には、当時道修町で開業していた武田薬品が神津村(現在の十三本町3丁目付近)に工場用地を購入し、翌年に操業開始しました。こうした企業が増加し、働く人々も集まって来ました。

大正10年ごろからは、急速に発展した近郊とのアクセス向上をめざし、近



まとめ

十三は、川の流れによって生まれ広がった、水の恩恵が欠かせぬ土地ということが分かりました。時代が進んで川の流れが変化すると、それと共に人の流れも変わり、ひいては十三の街並みも変わっていったのですね。区内に残る川の痕跡を巡りながら、歴史の流れに触れてみてはいかがでしょうか?



新之介さん紹介

淀川区生まれ淀川区育ち。地形視点で町のなりたちをひも解きながら歩く、大阪高低差学会代表。NHKの「プラタモリ」をはじめ、多数メディアにも出演されています。



新之介さんのブログ  
「十三のいま昔を歩こう」



大阪高低差  
学会ブログ



参考文献

大阪春秋第84号/大阪春秋社・東淀川区史/東淀川区史編集委員会・よど川発見伝/大阪市淀川区・凹凸を楽しむ 大阪「高低差」地形散歩/大阪高低差学会 新之介・大阪市の旧街道と坂道/大阪市土木技術協会・大阪都市協会